

神皇実録

弘仁六年（815）に撰上された『新撰姓氏録』の附録と
いうことになっているが、十三世紀後半の偽書と思われ
る。手力雄命は高皇産霊神の子と読めないこともないが、
北畠親房も「元元集」で示しているように思兼命の子と
読むべきであろう。手力雄命が思兼命の子であるという
説はこのあたりが発生源かと思われる。また、赤字は書
き込みと思われるが「妹 思兼命」とあるのが興味深い
（大女は長女の意）。寛保壬戌・1742年の鈴鹿文庫蔵写
本による。

天御中主神以下の神々に続いて

父子道著

一 高皇産霊神 皇祖神故亦名高貴神
天御中主神長男也

大女 栲幡豊秋津姫命 皇孫尊母也
高貴女神

妹 思金命 智性靈坐
相殿姫神 天手力雄神 石戸開神
坐相殿神

とある。

また、伊勢太神宮の項の太神神宮三座として「天照太神

一座」に続いて

左相殿

・天手力雄神一座

右相殿

・栲幡千姫殊思金神一座

神語記曰

件二神同殿坐倍從故稱相殿神也亦曰

思金神天照太神相

殿坐舊事本記曰

右相殿神栲幡豊秋津姫命坐^云本記

思金神者拝祭佐

登則侶五十鈴宮

不合也

とある。

註 愛媛大学の「鈴鹿文庫」一覧から「神皇実録」を探

す。画像番号は 005.jpg と 015.jpg。

なお、「神道大系 論説編 伊勢神道（上）」に翻

刻がある。